

# 江戸時代の塩づくりりに汗 防府・中関小児童が体験



防府市浜方の中関小学校の4年生が4日、学校近くの三田尻塩田記念産業公園で、地区に伝わる江戸時代の塩づくりを体験した。

地域の歴史や伝統、昔の人たちの努力と苦勞を学ぶ総合的な学習で、この日は児童27人が参加。干満の差を利用して海水を引き入れて湿らせた砂に塩分を付着させる人浜式と呼ばれる製塩方法を学んだ。

児童たちは芝口英夫園長らから説明を受けながら、復元された塩田で海水の水分を蒸発しやすくする「浜引き」や、地場に海水をま

浜方

「竹子」と呼ばれる大きな熊手のような道具で塩田の砂に筋を付ける作業を体験する児童たち。4日、防府市

いて塩を付きやすくする「撒潮」と呼ばれる作業などを行った。

「竹子」と呼ばれる大きな熊手のような道具で砂に筋を付けたら、地場にまく海水をおおってくみ取ったりする作業は力仕事で、児童たちは額に汗を流しながら取り組んでいた。岡幸路君(10)は「塩田に海水をまく時におげが思ったよりも重たくて難しかった。江戸時代はこの作業を毎朝やっている人がいたことはすごいと思った」と話した。

「かん水」と呼ばれる濃い海水を煮詰めて塩を作る

「塩焚き」も体験し、水が蒸発して塩の塊ができる。児童たちは歓声を上げた。

芝口園長は「きれいな塩を作るためにはきれいな海でなければならぬ。海に流れる川を排水で汚さないようにしよう」と呼びかけた。

防府市の中関地区は広い干拓地の特徴を生かして塩づくりで栄えた。江戸時代の長州(萩)藩の主な産業は「防長三白」と呼ばれる米、紙、塩で、作られた塩は三田尻から北前船で積み出され、幕末の長州藩の財源にもなったとされる。

4年生 総合的な学習  
「塩づくり体験」

令和4年10月5日 山口新聞